

## 第2章

---

# 文化遺産に関する調査

## 第 2 章 文化遺産に関する調査

### 1. 文化遺産に関する調査の概要

湯浅町において、これまで行われてきた文化遺産に関する調査等について整理する。

最も広範囲を対象としているものとして、『湯浅町誌』編纂にあたっての資料の整理と収集が挙げられる。『湯浅町誌』は、昭和 42 年（1967）に刊行されたものである。これが本町について一般的に整理された基礎資料として、現在でも調査等で活用されている。

文化遺産の個別詳細調査については、近年いくつかの調査がされている。本計画作成にあたり、町並み景観の構成要素である歴史的建造物の調査と、醤油醸造に関連する民俗資料の調査を行い、既往調査の補完を行った。

次項では、その他、和歌山県が行った総合的な調査や、郷土史家らが地道に取り組んできた調査についても整理し、各既往調査の概要を示す。

### 2. 既往調査の内容と成果

#### i. 紀州湯浅の町並み 伝統的建造物群保存対策調査報告書

この調査は、平成 11 年度から平成 12 年度の 2 か年で実施された、湯浅町における伝統的町並みの現況把握を行い、その保存や整備について検討するための、町並み環境に関する総合的な調査である。

調査では、旧市街地全域を対象とした目視による外観調査と、20 件の詳細な個別調査が行われた。個別調査では、実測図の作成や写真撮影、聞き取り調査等を行い、建築年代や改変履歴を整理した。その他、住宅の住まい方の変遷に関する聞き取りや、醤油、金山寺味噌、漁網、漁業といった伝統産業と町家に関する調査を行った。

#### 【伝統的建造物群保存対策調査 個別調査対象建造物一覧】

No	名称（所有者）	建築年代	No	名称（所有者）	建築年代
1	北村家（大三）	近世後期	11	東家（旧藤代家）	近世後期
2	太田家	近世後期	12	栖原家	明治 7 年（1874）
3	加納家（角長）	近世後期	13	津浦家	明治 11 年（1878）
4	土岐家	近世後期	14	岡家	明治前期
5	塩崎家	近世後期	15	原家	明治中期
6	竹林家	近世後期	16	大本紀伊分苑	明治後期
7	金谷商店左棟	近世後期	17	金谷商店右棟	大正 3 年（1914）
8	白子家	近世後期	18	上野家（万忠）	大正 3 年（1914）
9	阿瀬家	近世後期	19	加納家	大正 10 年（1921）
10	梓谷家	近世後期	20	戸津井家	昭和 11 年（1936）

調査の結果、旧市街地では、近世初頭に開発され醤油・金山寺味噌の醸造業を中心に発展してきた醸造町としての地割が良好に残されており、江戸末期から昭和にかけての伝統的な建造物が集積していることが明らかとなった。このうち、北町・北鍛冶町・北中町・北浜町の6.3haが伝統的建造物群保存地区とされ、平成18年（2006）12月に国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されている。

個別調査の対象となった20件のうち、伝建地区に含まれたものは11件であり、9件は伝建地区外となった。地区外となったもののうち、3件は既に除却され、主屋が残存するものであっても蔵等の付属屋が除却されている所が複数みられる。逆に伝建地区内となった11件のうち9件については、付属屋も含めた何らかの建造物に対し調査後に保存修理（重伝建選定前の町単独の補助事業を含む）を行っており、伝建地区制度導入による成果を認めることができる。

## ii . 湯浅町重要建造物調査

本調査は、平成30年度から令和元年度にかけて2か年で実施された調査である。湯浅町は、先立つ平成18年（2006）に重伝建選定、そして平成29年（2017）には日本遺産に認定された。このような湯浅町における醸造の文化に注目が集まる中で、醤油・金山寺味噌の醸造に関連する建造物について、より詳細に調査することでその価値を明らかにすることを目的として調査が行われた。

調査対象は、<sup>かどちょう</sup>角長（加納家住宅）、<sup>たまいしょうほんぼだいさん</sup>玉井醬本舗大三（北村家住宅）、<sup>おおたきゅうすけぎんせい</sup>太田久助吟製（太田家住宅）、<sup>おおもとぎょうきいほんえん</sup>旧栖原家住宅、大本教紀伊本苑の5件で、いずれも古くから醤油、あるいは金山寺味噌の醸造業を営んできた店舗である。このうち、角長（加納家住宅）は、醸造に関連する建物群が残り、現在もそこで醸造が営まれていることから、建物ごとの検討など、より詳細な調査を行っている。

この調査では、主屋の建築年代が江戸末期に遡ると思われる3件について主屋の増築や土蔵群に拡張の過程が読み取れた。また、明治期の2件では当初から規模が大きく、ツメバと呼ばれる醸造過程を担う空間を主屋内に取り込んでいた。ここから、明治期の湯浅の醤油醸造家が1軒あたりの生産量を増やし大型化していく過程で、古くからの醸造場の規模を拡大し、新たに建てられた醸造場は当初から効率的な配置で建てられていたということがわかった。その中でも角長は、天保12年（1841）に<sup>かどやうまたろう</sup>角屋右馬太郎から暖簾分けされて創業して以来、主屋を増築して順次規模を拡張し、敷地の拡大と土蔵等の醸造関連施設の拡充を図っていった過程が、建築群の建築年代の推察等から明らかとなった。

## 【湯浅町重要建造物調査 対象建造物一覧】

No	名称（所有者）	建築年代
1	角長 (加納家住宅)	主屋
2		江戸末期
3		離れ
4		大正期
5		土蔵
6		明治中期
7		穀蔵
8		江戸末期
9		作業場
10		大正期
11		醤油蔵
12		江戸末期
13		仕込蔵
14	江戸末期	
15	翹室	
16	明治39年(1906)	
17	樽蔵	
18	江戸末期	
19	醤油蔵(南)	
20	明治後期	
21	醤油蔵(北)	
22	大正12年(1923)	
23	辰巳蔵(職人蔵)	
24	慶応2年(1866)	
25	角蔵	
26	明治44年(1911)	

No	名称（所有者）	建築年代
14	玉井醬本舗大三 (北村家住宅)	主屋
15		江戸末期
16	太田久助吟製 (太田家住宅)	土蔵
17		江戸末期
18		主屋
19		江戸末期
20		前蔵
21	旧栖原家住宅	西蔵
22		江戸末期
23		東蔵
24	大本教紀伊本苑	江戸末期
25		すきま蔵
26	旧栖原家住宅	明治後期
27		主屋
28		明治7年(1874)頃
29	旧栖原家住宅	文庫蔵
30		明治前期
31	大本教紀伊本苑	容器庫・穀庫
32		明治前期
33	大本教紀伊本苑	主屋
34		明治40年(1907)

## iii. 湯浅町内歴史的建造物悉皆調査

この調査は、令和元年度に、本計画の作成にあたっての調査として実施されたものである。湯浅町内には、伝建地区やその周辺の旧市街地だけではなく、農業や漁業などと関連する集落景観や、醤油醸造以外の生業に関係する建造物等も残されているが、旧市街地以外では歴史的建造物の状況について調査されてこなかった。そこで、全町域を対象にした歴史的建造物の悉皆的な調査を行い、歴史的建造物の残存状況の把握を目的とし、加えて、集落景観の状況や生業との関連などを考察することで、本町の歴史文化の特徴を明らかにするため調査が行われた。

調査は、道路から視認できる範囲の目視により、およそ昭和前期（昭和30年代）までに建てられたと思われる建造物を地図上に落としリスト化した。また、そのうち、地域や生業等を考慮して、6件の個別調査を行い、平面図の実測や調書作成を行った。

これにより、1,505件の歴史的建造物がリスト化された。伝建地区があり、近世以降の人口密集地でもある湯浅地区には、900件を超える建造物が確認された。その他の田、栖原、吉川、山田といった地区でも100件以上の歴史的建造物があることがわかった。地区の地形的な要因や、生業等による成立要因を含めた集落景観の状況を検討すると、各地区それぞれの特徴が浮かび上がってきた。田地区は、海に近い西側に漁家、細く東に延びる谷筋の南北の麓に農家が集まる。農家は、背面に段々畑となるみかん畑を背負い、主屋と納屋が麓に建つ。それらを繋ぐように、谷斜面地の裾には谷奥でU字となる形状の道路が通る。このように、みかんの段々畑と農家という景観が受け継がれている地区といえる。栖原地区では、西側の浜エリアでは、さながら港町のような景観が広がっている。栖原地区には、大規模な商人の本宅が多くあ



写真5 個別調査対象建造物

ったとされており、質の高い屋敷地型の民家が点在するとともに、細い街路に密集して建つ町家型の民家が混在する町並み景観が残る。斜面に近いところには農家があり、様々な表情を併せ持つ地区といえる。吉川地区は、東西に通る道路から、北に幾筋も伸びる谷に沿って集落が点在している。山田地区には、北谷、南谷と呼ばれる川沿いに集落が展開している様子がわかっている。

個別調査を行った6件のうち、農家建築は3件（吉川地区、山田地区、別所地区）である。古いもので明治に遡る可能性があるものが確認されたが、茅葺の建造物が1件も確認されておらず、建て替えをしながら続いていることが多いことが推察される。農家は、主屋とともに、選果や出荷といった作業を行うスペースとして納屋や中庭、納屋の機能を持たせた大規模な長屋門が敷地内に配される。その他の個別調査対象は、かつて湯浅の主要な産業であったとされている漁網製造業を営んでいた家、熊野古道沿いの茶を販売していた家、海岸近くに建てられた倉庫建築である。それぞれ、醤油醸造業とは別の生業を示す建造物であり、湯浅町の歴史文化の多様性を物語る調査成果となった。

### 【湯浅町内歴史的建造物悉皆調査 歴史的建造物分布図】

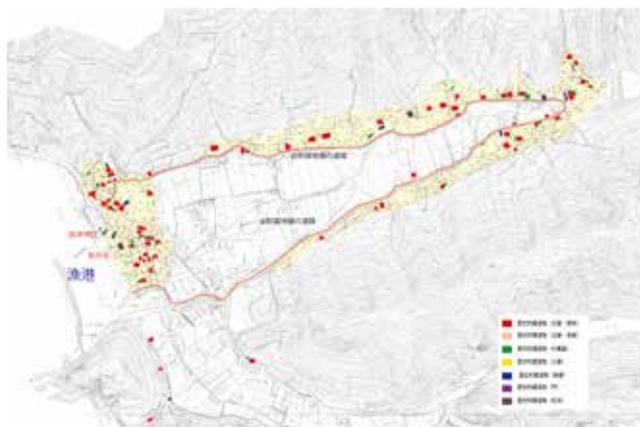


図 19-1 田地区

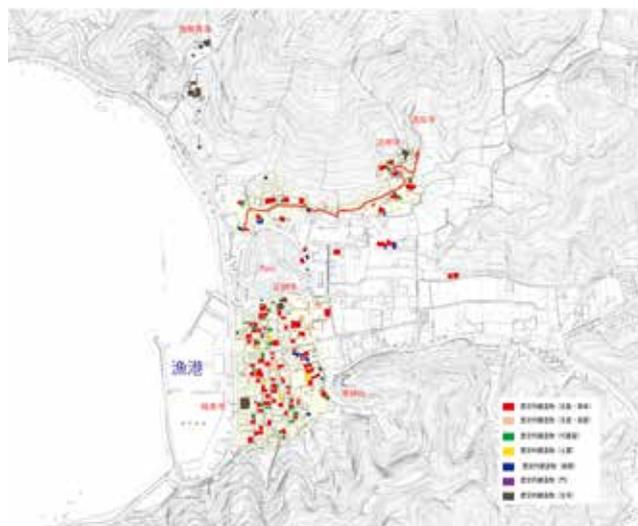


図 19-2 栖原地区

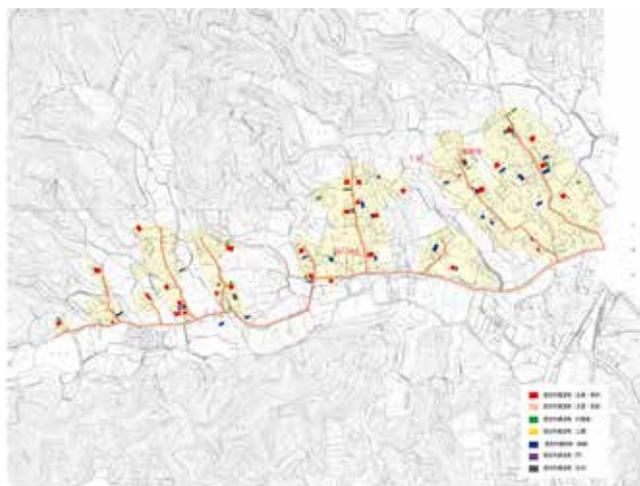


図 19-3 吉川地区

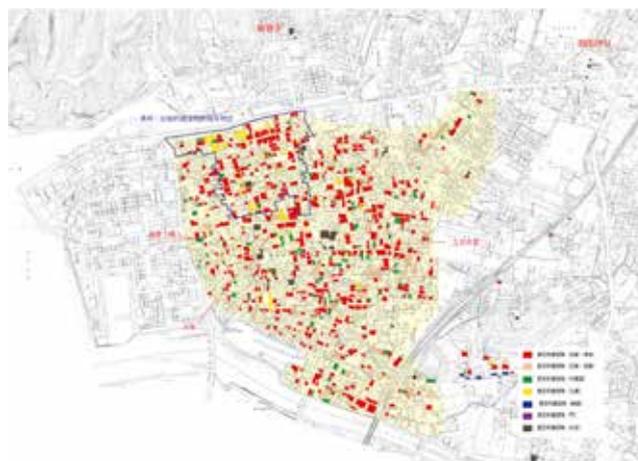


図 19-4 湯浅地区

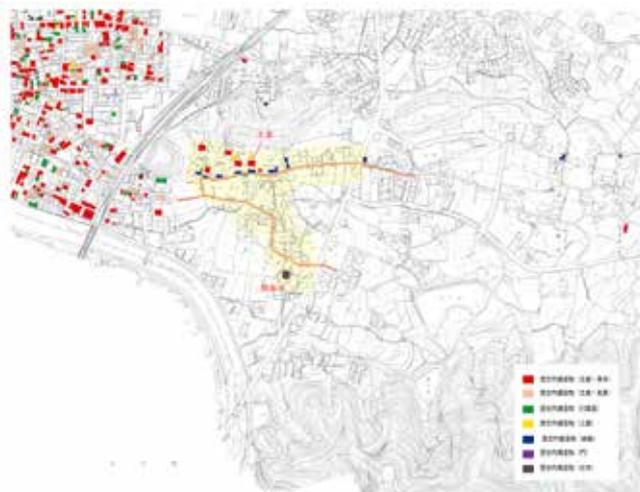


図 19-5 別所地区

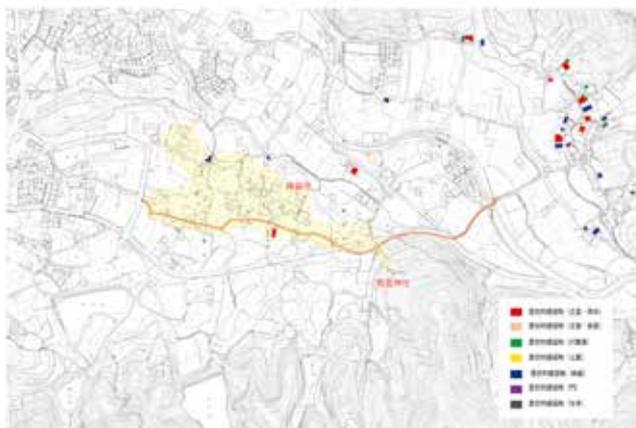


図 19-6 青木地区

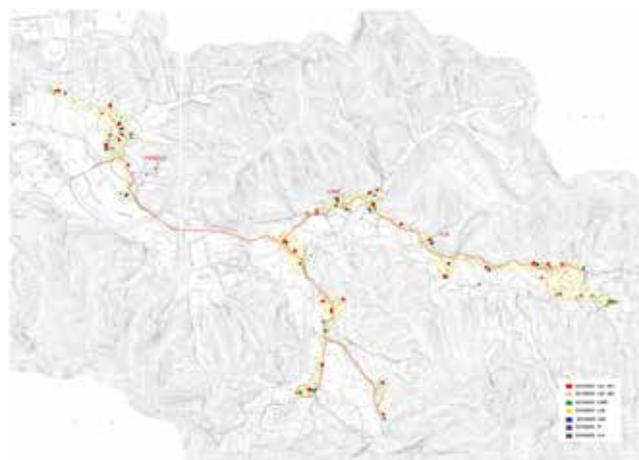


図 19-7 山田地区

- 歴史的建造物（主屋・単体）
- 歴史的建造物（主屋・長屋）
- 歴史的建造物（付属屋）
- 歴史的建造物（土蔵）
- 歴史的建造物（納屋）
- 歴史的建造物（門）
- 歴史的建造物（社寺）

【湯浅町内歴史的建造物悉皆調査 個別調査対象建造物一覧】

No	名称	地区	生業	建物名	建築年代
1	Y家	吉川	農業	主屋	明治末期頃
2	K家	別所	農業	主屋	昭和5年(1930)頃
				土蔵	
				長屋門	昭和26年(1951)
3	M家	山田	農業	主屋	大正15年(1926)
				インキョヤ	昭和5年(1930)
				便所・風呂棟	昭和初期
4	A家	湯浅	製網業	主屋	土間・居室 / 江戸末期 座敷 / 明治32年(1899)頃
				土蔵	江戸末期
5	立石茶屋	湯浅	茶販売	主屋	江戸時代
				座敷棟	昭和前期
				便所・風呂棟	昭和前期
				土蔵	昭和前期
6	倉庫	湯浅		倉庫(東)	大正頃
				倉庫(中)	昭和33年(1958)
				倉庫(西)	大正期

#### iv . 湯浅町内醤油醸造関連民俗資料調査

平成30年度から令和元年度にかけて実施された。湯浅町の歴史文化の特筆すべき特徴として醤油醸造があげられる。しかし一方で、醸造文化については深く調査や考察が進んでいない部分も多い。特に、醸造文化を最も顕著に示す醸造道具などの民俗文化財については、角長（加納家）が所蔵する資料のうち数点が町指定文化財となっているのみで、これまで資料収集や整理がなされていなかった。そこで、地域計画作成にあわせて、醤油醸造関連民俗資料調査として、把握されている民俗文化財のリスト化作業と調査を行った。

調査は、大きくわけて2つの資料群について行った。1つは、旧栖原家所蔵資料群である。旧栖原家は、フジイチの屋号で昭和の終わりまで醤油醸造業を行っていた家で、平成29年（2017）の建物・敷地の公有化にあわせて所蔵されていた資料群も公有化された。資料は、分類の結果、醤油醸造に関連する資料のほか、販売等営業に関する資料、饗応や慶弔事に使用するもの、生活に関するものなど、醤油醸造家の生業から生

活まで全般を物語る資料群であることが判明した。資料数は、生業に関する資料群が246件、生活に関する資料群が320件となっている（同一種類のものとはまとめて1件とした）。

もう1つは、個人蔵である津浦家麴関係資料である。津浦家は、<sup>うちでん</sup>内伝麴店として、醤油等の醸造に欠かすことのできない麴を製造販売していた家である。一時期は、資料を公開しており、一群として管理されているものの、近年では、製造の様子を知る家の人もいなくなり、常時公開されていない状況である。しかし、資料は良好な状態で、今回の調査では民俗資料として整理される道具類を中心に、232点の資料について写真撮影およびリスト化を行った。また今回リスト化は行わなかったが、<sup>むら</sup>室とともに400点を超える麴蓋が残されているほか、古文書類も残存していることがわかっている。

#### v . 湯浅党城館跡総合調査報告書

平成28年度から令和元年度にかけて、湯浅城跡をはじめとする湯浅党に関連した有田郡市中世城郭調査が実施された。有田市、有田川町と湯浅町の有田郡市1市2町は、平成28年（2016）より、中世城郭の保存・活用を推進し、三者が連携し協力していくために協定を締結し、様々な調査を行ってきた。専門家による調査指導委員会のもと、文献や石造物、城郭の総合的な調査を行うとともに、湯浅町では、平成29年度に湯浅城跡の航空レーザ測量を、平成30年度には発掘調査を行った。大規模な平坦面や、堀切と思われる遺構にトレンチを設定した発掘調査では、少なくとも



写真6 旧栖原家民俗資料調査風景



写真7 津浦家麴関係資料

も13世紀代まで遡る遺構があることを確認し、大規模な平坦面では、鎌倉時代から室町時代にかけて繰り返し整地を行いながら礎石を伴う建物が建っていたこと、茶道具である風炉や青磁などが出土していることから饗応の場としての性格が含まれる可能性、火災の痕跡があることなどが判明した。また、有田川町の藤並館跡でも発掘調査が行われ、鎌倉時代の土塁が確認されており、これら2つの城館跡は鎌倉時代の湯浅党の重要拠点であることがわかった。

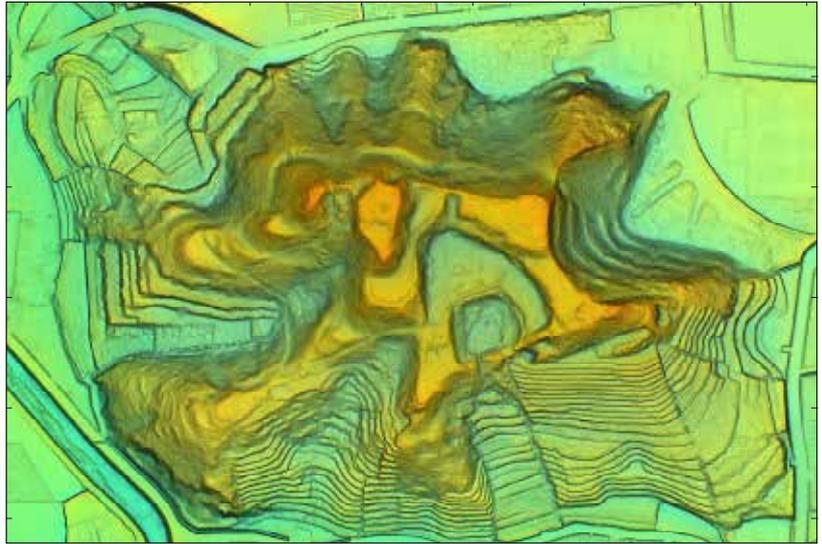


図20 湯浅城跡航空レーザー測量による地形図

総合調査報告書では、これら2つの城館跡の調査成果を含め、歴史、文献、石造物、仏教美術の分野から湯浅党の全体像にせまり、また関連遺跡として、有田市の岩室城跡や有田川町の鳥屋城跡をはじめ、湯浅町内では広保山城跡、石崎屋敷跡、施無畏寺旧境内、勝楽寺旧境内を取り上げている。

## vi. 埋蔵文化財に関する調査

湯浅町における埋蔵文化財に関する調査は、平成30年度に行われた湯浅城跡の調査と、青木I遺跡で行われる予定の公共工事計画に伴う試掘確認調査、その成果を受けて令和元年度に行われた青木I遺跡本発掘調査が近年の調査成果である。それまで、天神山古墳や青木火葬墓で出土した遺物はあるが、正確な調査成果として残っているものは、少なくとも今回の地域計画作成にあたって行った事前把握においては確認されなかった。本町における周知の埋蔵文化財包蔵地(※1)は23ヵ所あるが、詳細な記録が残る考古学的な調査が行われていないものがほとんどであり、また、伝承や歴史学から考えて埋蔵文化財が存在する可能性があるエリアが包蔵地となっていないという指摘もある。



写真8 湯浅城跡発掘調査



写真9 青木I遺跡出土遺物

※1 周知の埋蔵文化財包蔵地

埋蔵文化財とは、土地に埋蔵されている文化財(遺跡や遺物)のことであり、それらが包蔵されている土地として文化財保護法に基づき周知されている所を周知の埋蔵文化財包蔵地と呼ぶ。

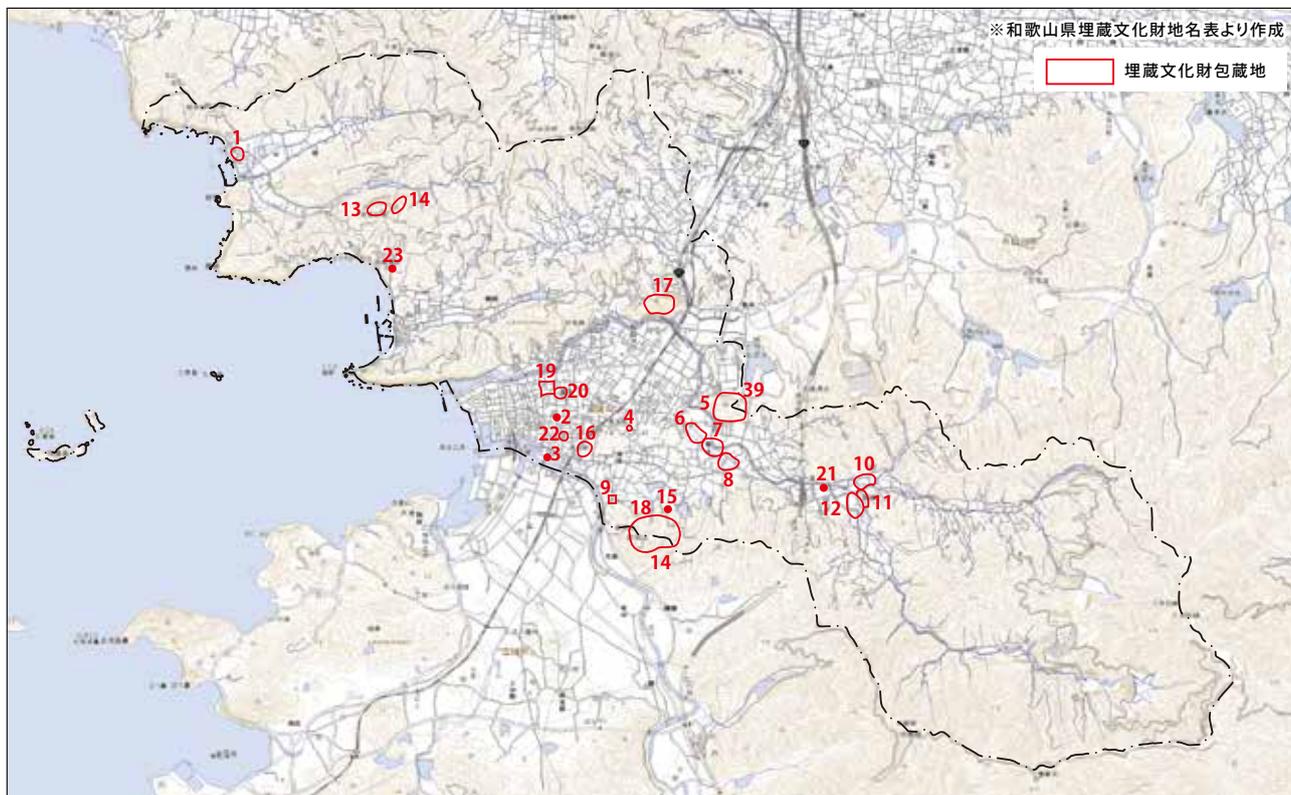


図 21 湯浅町埋蔵文化財包蔵地図

【湯浅町埋蔵文化財包蔵地一覧】

遺跡番号	遺跡名	所在地	種別	時代	立地	遺跡概況
1	国津神社遺跡	田	散布地	平安	平地	緑釉陶器、海浜
2	道町道標	湯浅	道標	—	平地	熊野街道の道標
3	島の内古井戸	湯浅	古井戸	—	平地	熊野街道関係
4	天神山古墳	別所	古墳	古墳	平地	円墳、玉類、銅鏃、形象埴輪
5	湯浅城跡	青木	城跡	中世	平地	土塁、濠、康治二年湯浅宗重築城
6	青木Ⅰ遺跡	青木	散布地	室町	平地	瓦器
7	青木Ⅱ遺跡	青木	散布地	弥生	平地	弥生土器、土師器
8	青木Ⅲ遺跡	青木	散布地	古墳	平地	須恵器（長頸壺）
9	久米崎王子跡	別所	王子跡	平安	丘陵裾	—
10	山田北山遺跡	山田	散布地	室町	丘陵裾	鉄槍、瓦器、明銭
11	山田廃寺	山田	寺院跡	平安	丘陵裾	蓮華文軒丸瓦
12	山田堂山遺跡	山田	散布地	弥生	丘陵裾	弥生土器
13	明恵上人遺跡（西白上山遺跡）	栖原	碑	鎌倉	山頂	—
14	明恵上人遺跡（東白上山遺跡）	栖原	碑	鎌倉	山頂	—
15	青木火葬墓	青木	墳墓	奈良	山腹	蔵骨器、和銅開珎、帯金具、木炭
16	白樫城跡	湯浅	城跡	中世	丘陵端	曲輪（2）
17	広保山城跡	吉川	城跡	平安	山頂	曲輪、空濠、湯浅宗重築城
18	高城城跡（広城跡）	青木	城跡	室町	山頂	瓦、陶器、畠山基国築城
19	湯浅屋敷跡	湯浅	館跡	中世	平地	—
20	岩崎館跡	湯浅	館跡	中世	平地	—
21	帝の跡	山田	館跡	中世	平地	—
22	畠山館跡	湯浅	館跡	中世	平地	—
23	石造宝篋印塔	栖原	石塔	室町	丘陵	寺院境内地

### vii. 和歌山県が主体となって実施した調査

近世社寺建築、近代化遺産（建造物等）、近代和風建築といった建造物分野における和歌山県の調査では、湯浅町の文化遺産が多く取り上げられている。調査の対象となった建造物の中には既に除却され現存しないものもあり、特に伝建地区外における建造物の保存の困難さがあらわれている。

そのほか、和歌山県立文書館が平成16年度から17年度に実施した「民間所在資料保存状況調査」では、主として個人が所有する、あるいは所有していた古文書等の調査が行われた。また、和歌山県が平成24年度から25年度に実施した「文化財（美術工芸品）緊急調査」では、主として津波浸水の恐れがある沿岸部の寺院における美術工芸品の悉皆調査が行われており、限定的ではあるものの美術工芸品分野の拾い集めがなされた。

また、和歌山県ではないが、有田地方の文化財保護審議委員で作る有田地方文化財保護審議委員連絡協議会（事務局：和歌山県有田地方教育事務所）が作成した『有田地方文化財目録』は、未指定文化財を含めた全分野における文化遺産をリスト化している。

### viii. 調査研究機関、郷土史家等による調査

和歌山県立博物館や和歌山県立文書館等によって、展覧会や研究等を契機とした町内の寺社や個人宅への調査や、湯浅町文化財保護審議委員会（現・文化財保護審議会）の委員による寺社や個人宅への調査が確認されているが、湯浅町としてその成果を整理し、文化遺産の把握に活用されているものは多くない。

個人の調査でいえば、湯浅町に関する歴史や文化遺産等の調査、研究において、地元郷土史家の果たしてきた役割は非常に大きい。例えば、町内に所在する石造物について、悉皆的に調査し実測や聞き取りを行ってまとめた『湯浅の野ほとけ散歩』や、自らの記憶や体験をおりまぜながら、町内の歴史文化について網羅的に記載した『湯浅の街見聞日記』など非常に緻密で徹底した調査がなされている。湯浅町教育委員会には、これら郷土史家がまとめた成果や講演の資料等が保管されているが、筆者の意思等により刊行・公開には至っていない資料がほとんどである。

## 【湯浅町の文化遺産に関する調査報告等 一覧】

	総合的	建造物	古文書等	美術工芸	遺跡 / 埋蔵文化財	民俗
1960	湯浅町誌 昭和42年(1967)					
1970			和歌山県古文書目録2 有田川流域古文書調査 報告書 昭和47年(1972)			
1980			和歌山県古文書目録10 有田川流域古文書調査 報告書(追録) 昭和57年(1982)	湯浅の野ぼとけ散歩 昭和55年(1980)		
1990	有田地方文化財目録 平成9年(1997) 湯浅の街 見聞日記 平成10年(1998)	和歌山県の近世社寺建築 緊急調査報告書 平成3年(1991)			吉川の古跡 平成4年(1992)	
2000		紀州湯浅の町並み 伝統的建造物群保存対策 調査報告書 平成13年(2001) 和歌山県の近代化遺産 一和歌山県近代化遺産 (建造物等) 総合調査報 告書一 平成19年(2007)	「民間所在資料保存状況 調査事業(地域史料保存 調査事業)」 平成17年(2005)			
2010		和歌山県の近代和風建築 和歌山県近代和風建築 総合調査報告書 平成22年(2010)		文化財(美術工芸 品) 緊急調査事業 平成25年(2013)		
2020		湯浅町重要建造物調査 報告書 令和2年(2020) 湯浅町内歴史的建造物 悉皆調査 令和2年(2020)			湯浅党城館跡 総合調査報告書 令和2年(2020)	湯浅町内醤油醸造 関連民俗資料調査 令和2年(2020)

■…湯浅町 ■…和歌山県 ■…郷土史家

### 3. 湯浅町内文化遺産の集積

#### (1) 文化遺産リストの作成

これまでの既往調査の中で、対象として取り上げられたものを整理し、湯浅町内に所在する文化遺産の件数や実態を把握するため、湯浅町文化遺産リスト(以下、「文化遺産リスト」という。)を作成した。作成にあたっては、湯浅町誌に記載されている社寺の所蔵品や旧跡等の項目から抜き出したもの、和歌山県や湯浅町が実施した専門的な調査の対象となったもの、近年に実施されその概要が把握されている外部専門機関の調査によるものをはじめ、郷土史家等が調査し資料としてまとめたものをベースに文化遺産のリストを作成した。

伝統的建造物群保存対策調査や湯浅町内歴史的建造物悉皆調査(以下、「悉皆調査」という。)のうち、文化遺産リストに掲載するものは個別詳細調査を行ったもののみとし、悉皆調査で把握した歴史的建造物の全容については、別表に掲載した。

民俗資料や古文書、一定の場所に集中して置かれているようなもの(例:地蔵堂に集められた石造物等)等、群として管理されているものは、原則として文化遺産リストでは1件として計数し、詳細が把握されており内訳点数が判明している場合は、数量を記載するとともに、別表や備考欄によりその詳細を記載することとした。なお、点数や詳細が不明の場合は、数量欄を「-」とした。

湯浅町誌や郷土史家等の調査は、実施から相当期間が経過しているものもあるが、その後の調査等がされていない文化遺産については現状確認ができていないものも含まれる。

文化遺産リストでは、図22に整理した区分により分類した。文化遺産リストにおける歴史資料は、例えば歴史上の人物にまつわる古文書や絵画、道具類等の資料群や、特定の場所に伝来した資料群というような、複数の区分にまたがる資料群として歴史を伝えるものを対象とした。伝承地とは、詳細な場所や伝えられている出来事の歴史的、考古学的な裏付けはないものの、地域に伝わる伝説的な出来事があった場所とされているものをいう。石造物は、原則として屋外にある石仏や石碑、石塔等をさす。名勝地は、芸術上、鑑賞上の価値を認める、人々が景勝地として認識していたものを、景観は、地域の歴史文化を物語る特徴的な集落や町並み、自然景観を対象とする。郷土料理や食に関する風習等が考えられる食文化をはじめ、地域に伝わる地域の特色を示す生活文化の形として、民話、習俗、民謡、技芸を区分に入れている。これらの区分については、既に文化財指定等を受けた際の区分とは異なる場合がある。

歴史を 考える 上で 大切な もの	<b>建造物</b>	寺社建築・公共建築・民家・堀・水路・土木工作物等	大切な 景色・ 自然	<b>名勝地</b>	芸術上・鑑賞上価値の高い庭園・海浜・山岳等
	<b>絵画</b>	仏画・壁画・障壁画・著名な作家の絵画等		<b>景観</b>	地域の歴史文化を背景にした特徴を示す景観
	<b>彫刻</b>	仏像・神像等		<b>動物・植物</b>	動物・生息地・植物・群生地等
	<b>工芸品</b>	仏教用具・刀剣・陶芸作品等		<b>地質鉱物</b>	地層・岩・化石等
	<b>古文書等</b>	古文書・著名な人物の書跡・典籍・文字資料等	人々の 生活を 物語る もの	<b>有形民俗文化財</b>	衣食住・生業・信仰・年中行事等に用いられる用具等
	<b>考古資料</b>	(出土した)土器・埴輪等の遺物等		<b>無形民俗文化財</b>	祭礼・民俗芸能・民俗技術等
	<b>歴史資料</b>	(複数の区分にまたがる)群として歴史を伝える物等	地域に 伝わる 特色 ある もの	<b>食文化</b>	郷土料理・食に関する風習・独特の調理方法等
	<b>遺跡</b>	歴史上の事象の発生日点・跡地・遺跡・著名な人物の関係地等		<b>民話</b>	言い伝え・昔話等
	<b>伝承地</b>	詳細な場所や事実は不明なもの の言い伝えられてきた伝承地		<b>習俗</b>	季節の決まり事・独特の行事・ 地域における決まり事等
	<b>石造物</b>	石仏・石碑・石塔等		<b>民謡</b>	盆踊りの歌・生業の際に歌われていた歌等
<b>無形文化財</b>	歴史上・芸術上価値の高い演劇・音楽・ 工芸技術等	<b>技芸</b>		華道・茶道・舞踊・地域特有の技術等	

図22 湯浅町文化遺産リストにおける区分表

また、文化遺産の所在や所有の状況を整理するため、文化遺産リストには地区と所有者を掲載した。地区については、湯浅町（湯浅町教育委員会）が所有する文化遺産（建造物や遺跡等の不動産を除く）は、「湯浅町」とし、個人所有や不動産については7つの大字地区名とした。複数の地区にまたがる場合は原則として主要な部分が含まれる地区を採用し、全町にまたがる食文化等の場合のみ「定めず」とした。所有者については、所有者が判明していないものの明らかに個人所有である場合には「個人」とし、個人所有であるかどうかも含めて不明の場合のみ「不明」と整理した。

これにより作成された文化遺産リストについては、個人情報が含まれるものであることを鑑みて、一般には公開せず、湯浅町教育委員会が管理するものとする。

## (2) 文化遺産の集積結果

湯浅町文化遺産リストに掲載することができた文化遺産は、845件（5,359点）となった（令和3年8月現在）。

文化遺産の集積結果を、区分別、地区別、所有者区分別に分類すると、以下のとおりとなった。区分別の分類結果を見ると、区分表で整理した区分のうち、無形文化財、名勝地、民話、習俗、民謡、技芸で該当がなかった。また、動物・植物については現況を把握できていないものが多く、現存していないものも含まれる可能性が高い。食文化は、3件となっているが、これは日本遺産の構成文化財となっているものである。今回の文化遺産リスト作成において、地域に伝わる特色あるものとして区分を設けた生活文化に関する文化遺産の調査は実施できておらず、新たな文化遺産の確認には至っていない。対して、既往調査が進んでいる建造物分野においては142件を把握した。悉皆調査では、これら把握済みの建造物を含めて1,505件の歴史的建造物を確認しているところである。絵画や彫刻、古文書等といった美術工芸品に関する分野も、湯浅町誌で広く取り上げられていることから、多くの文化遺産の集積が出来た。特に古文書等については、外部機関による個別の調査の機会も多かったことから、138件（1,398点）と多い。また、郷土史家による集中的な調査研究がなされた石造物は、170件（636点）と非常に多くなっている。地区別に見ると、やはり中心地である湯浅地区が363件（1,334点）と最多となるが、栖原地区も149件（551点）と多くなっている。これは、特に施無畏寺において、古くから様々な機会文化遺産の調査が行われてきており、その存在や価値について広く知られていることが理由にあげられる。青木地区や山田地区等では件数が少ない傾向にあるが、地区の集落範囲や人口等を考えると、地域によって極端に文化遺産の把握が少ないというところまでは言えないと考えられる。所有者区分を見ると、やはり寺社所蔵が多く把握されていることがわかる。公共団体が所蔵するもののうち、湯浅町（湯浅町教育委員会）が所蔵するものは、湯浅町役場庁舎内や湯浅スポーツセンター等に保管されているものや不動産文化遺産など、53件（2,934点）となっており、古文書等や有形民俗文化財といった群で保管される文化遺産が多くあることがわかる。

このように、今回整理された文化遺産リストでは、多数の文化遺産を集積することが出来たが、把握件数が少ない文化遺産区分の存在や、地域特有の生活文化に関する文化遺産を把握できていないこと、リスト化された文化遺産の中には滅失している可能性のものもあること等の現況を踏まえ、新たに判明した文化遺産の追加や、滅失等が確認できた文化遺産の削除等、文化遺産リストは随時更新していくこととし、湯浅町内の文化遺産の把握等に利活用する。

〔文化遺産リストの分類結果〕

【1. 区分別】

区分名	件数	点数
建造物	142	143
絵画	100	159
彫刻	119	190
工芸品	14	19
古文書等	138	1,398
考古資料	18	77
歴史資料	6	7
遺跡	68	68
伝承地	34	40
石造物	170	636
無形文化財	0	0
名勝地	0	0
景観	0	0
動物・植物	18	18
地質鉱物	1	2
有形民俗文化財	9	2,594
無形民俗文化財	5	5
食文化	3	3
民話	0	0
習俗	0	0
民謡	0	0
技芸	0	0
合計	845	5,359

【2. 地区別】

地区名	件数	点数
山田	44	76
青木	28	43
別所	39	155
湯浅	363	1,334
栖原	149	551
田	102	140
吉川	75	146
湯浅町（動産）	42	2,911
定めず	3	3
合計	845	5,359

【3. 所有者区分別】

地区名	件数	点数
個人	100	751
寺社	593	1,527
湯浅町	53	2,934
その他不明	99	147
合計	845	5,359